



昨年の米大統領選挙は、2008年のネット選挙から更に進歩を遂げている。新しいICTの実験場とってよいほどである。今後の日本の選挙での実現を期待して、ビッグデータとスマートアプリの活用について、紹介することにしたい。

アメリカ大統領選を制したのはビッグデータの活用？

昨年のアメリカ大統領選挙におけるオバマ陣営の勝利について、ウェブ上の数多くのメディアは、ビッグデータの活用を強調している。ビッグデータという用語は、2011年後半頃から大きく注目されているバズワードである。

ちなみに、ビッグデータの定義は様々であるが、Volume(量)、Variety(多様性)、Velocity(速度)の3つの要素において、超大量・非構造的・リアルタイム的という性質を持つデータというのが、共通項のようである。

これまでの経験からして、このようなビッグデータから適切な情報を引き出し、大きな成果を挙げるのは至難の業であるといえる。効果が喧伝されているビッグデータの類は、一部の要素のみを含む通常データに近いものではないのか。

筆者がアメリカ大統領選挙のICT活用で事実と確認できたものは、次の2つである。一つは、オバマ陣営が、選挙に勝つためにICTのプロフェッショナルチームを組織し、選挙に勝つための情報活用に努めていたというものである。

このチームの活躍については、米TIME誌(By Michael Scherer, 2012年11月7日付け)が報じている。チームの構成やメンバーについては、「オバマ大統領の再選を勝ち取ったITチームは、どんなメンバーで構成されていたのか？」(http://www.publickey1.jp/blog/12/it_2013.html)をも、参照されたい。

二つ目は、今回の大統領選挙の50州での勝敗をすべての中させた専門家が存在

していたというものである。この人物は、ニューヨークタイムズの選挙予測専門家ネイト・シルバーである（TechCrunch Japan、2012年11月8日）。

このネイト・シルバーは、以前から膨大なデータを利用し彼独自の編み出した数理予測モデルを使って、予測を的中させてきた。ビッグデータで重要なのは、膨大なデータ部分よりは、独自に編み出した的確なモデルにあるのではないか。

アメリカの大統領選挙のネット選挙で注目すべきは、ICTに精通した専門家が多数動員されており、予測を100発100中の確度で的中させるコンピュータ・オタク（NERD）も存在しているという点にあるとあってよい。

アメリカ大統領選挙を一変させたスマートアプリ

今回のアメリカ大統領選挙でもっと注目すべき点は、スマホやタブレットといったスマート機への情報発信と情報交換である。有権者への働きかけのツールが、パソコンからスマホ／タブレットへと主役が交代した点である。

アメリカでのスマホ利用は、2007年にアップルの発売したiPhoneが先駆である。その後の5年間に、スマホは飛躍的に増加した。この結果、2008年の大統領選挙のネット端末がパソコンであったのに、2012年にはスマホに代わったのである。

今回の大統領選挙では、選挙向けの専用スマートアプリが、次々に登場して話題を集めた。オバマとロムニーの両陣営が、スマート機向けの専用アプリを投入し、候補者を自分の陣営へ誘導する様々な戦術を展開したのである。

両陣営とも、YouTubeにおける自らの党大会の中継模様を、スマート機で何時でもどこでも視聴できるようにしただけでなく、またGPSと地図を利用して有権者を選挙の集会所へと誘導するアプリを投入したのである。

その上、有権者から選挙資金を集めるスマートアプリまで登場させている。これは、クレジット決済「Square」を利用して、スマート機でモバイル決済が出来るようにしたアプリであり、有権者からの選挙資金集めを簡単・便利にしたのである。

オバマ陣営では、5ドル札にスマホを翳すと、オバマ大統領の顔写真をはじめ様々なメニューが現れ、ウェブサイトの閲覧や動画を再生させるだけでなく、オバマと一緒に写真を撮れて、twitterやfacebookに投稿できるアプリを投入していた。

また、米メディアも読者や視聴者を獲得するために、大統領選観戦を楽しめるアプリを提供している。ニューヨークタイムズは、大統領選挙を左右する接戦州における開票結果をもとに、いずれが最終勝利するかを予測するアプリを提供した。

さらに、若者に選挙の重要性をアピールするためゲームアプリまで、登場している。Epic Gamesが開発した無料で楽しめるアプリで、オバマとロムニーを戦わせるゲームである。このアプリは選挙人登録ページへ誘導する機能がついている。

以上、米大統領選挙に登場したスマートアプリの数々について紹介したが、我が国でも、スマートアプリが活用される時期の到来を期待している。（TadaakiNEMOTO）